第3節 家にあるもの

「絵本」はどの都市でも使用頻度が高いが、「ワーク」や「ＣＤ」「パソコン」などは都市によって家にある割合も使用頻度もさまざまだ。「テレビ」や「DVD（VCD）」を見る頻度は東京が３時間台、ソウルと台北が２時間台、北京と上海では１時間台と都市によって大きく異なる。就園状況別にみても、この傾向はあてはまる。

玩具や教具

さらに子どもがいる家にある玩具や教具などをみてみよう。北京や上海では、このように細かな質問紙調査にあまりなじみがないせいか、無答不明の割合が項目によっては20%以上に達するなどと非常に高かった（p.170 基礎集計表）。そこで、当該部分については無答不明を除いてそれぞれの玩具や教具の使用頻度を算出した。各項目ごとに、子どもの使用頻度をみてみよう（**図１－３－１**）。

「絵本」は、どの都市においても使用する頻度が高く、「ほとんど毎日」＋「週に３～４日」の割合は７～８割である。一番使用頻度が高いのはソウルの81.4%（「ほとんど毎日」＋「週に３～４日」、以下同様）、低いのは上海の67.6%である。

「ワーク」の使用頻度は都市によって異なる。台北では、ほとんどの家に「ワーク」があるうえに、使用頻度も高い（49.5%）。東京では５人に１人が「ワーク」は「家にない」と回答しており、使用頻度も高いとはいえない（16.7%）。北京、上海では、ほとんどの家にあるものの、使用頻度には個人差があるようだ。

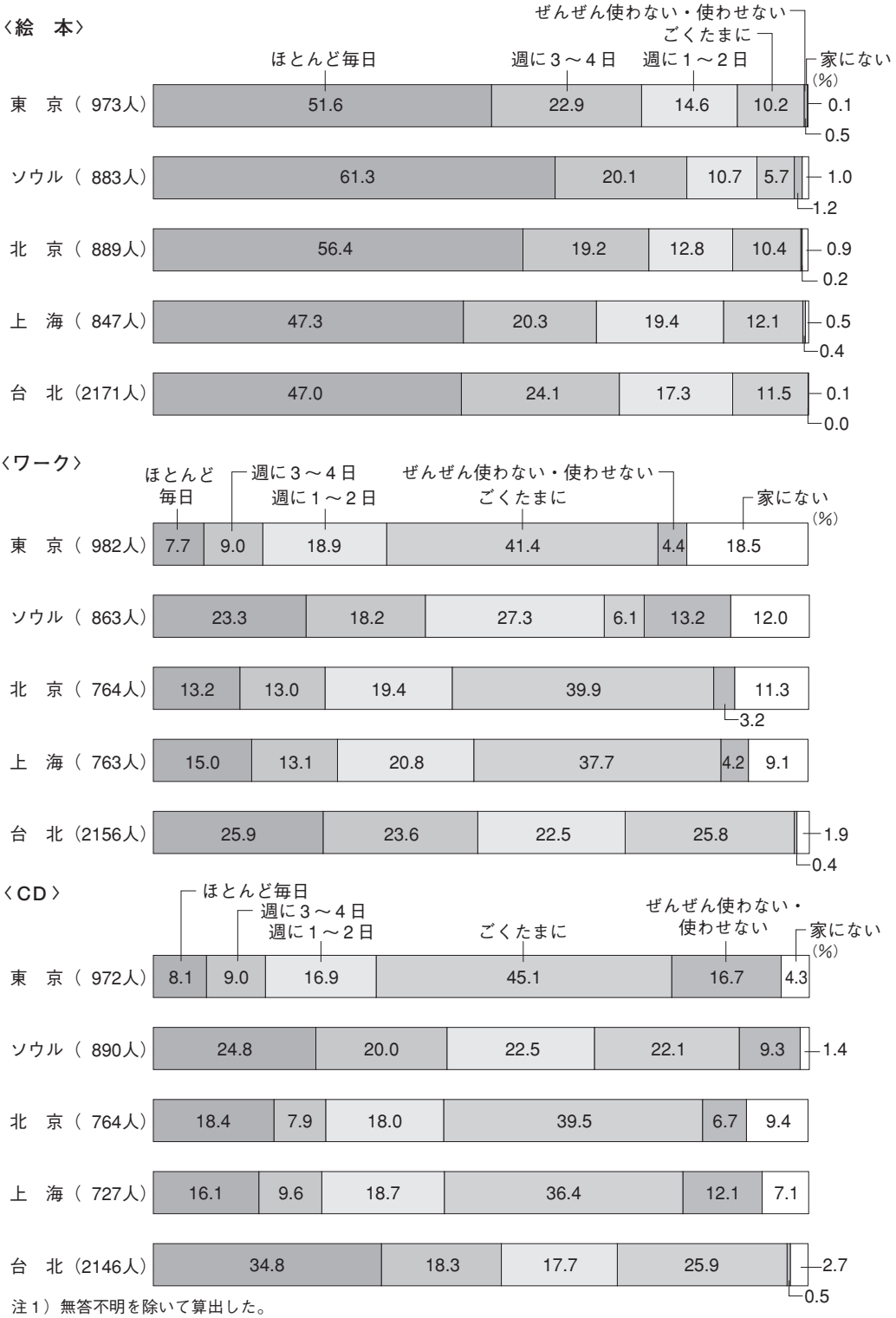
「CD」も、都市によって使用頻度が異なる。台北、ソウルでは比較的使用頻度が高く（53.1%、44.8%）、東京では家にはあっても子どもの使用頻度はそう高くないようだ（17.1%）。

「テレビゲーム」（ソウルでは「ゲーム」の使用頻度をたずねているため、意味するものが異なる）の使用頻度をみると、この年齢の子どもがいる家庭では、「テレビゲーム」自体が家にないということも珍しくはないようで、どの都市でも、普及は５～６割にとどまる様子だ。また、いずれの都市でも使用頻度は高くない。そのなかでも使用頻度が比較的高いのは、東京の子どもであり、およそ10人に１人が週３～４日以上、５人に１人が週に１日以上遊んでいるようだ。

「パソコン」についてみてみると、「パソコン」が一番普及しているのはソウルであり、ほとんどの家にあるうえ、就学前の子どもでも５人に１人が毎日、また６割が週に１日以上「パソコン」に触れている。反対に一番利用していないのが東京のようだ。家にある比率は東京が一番低く、また、使用頻度も低い。

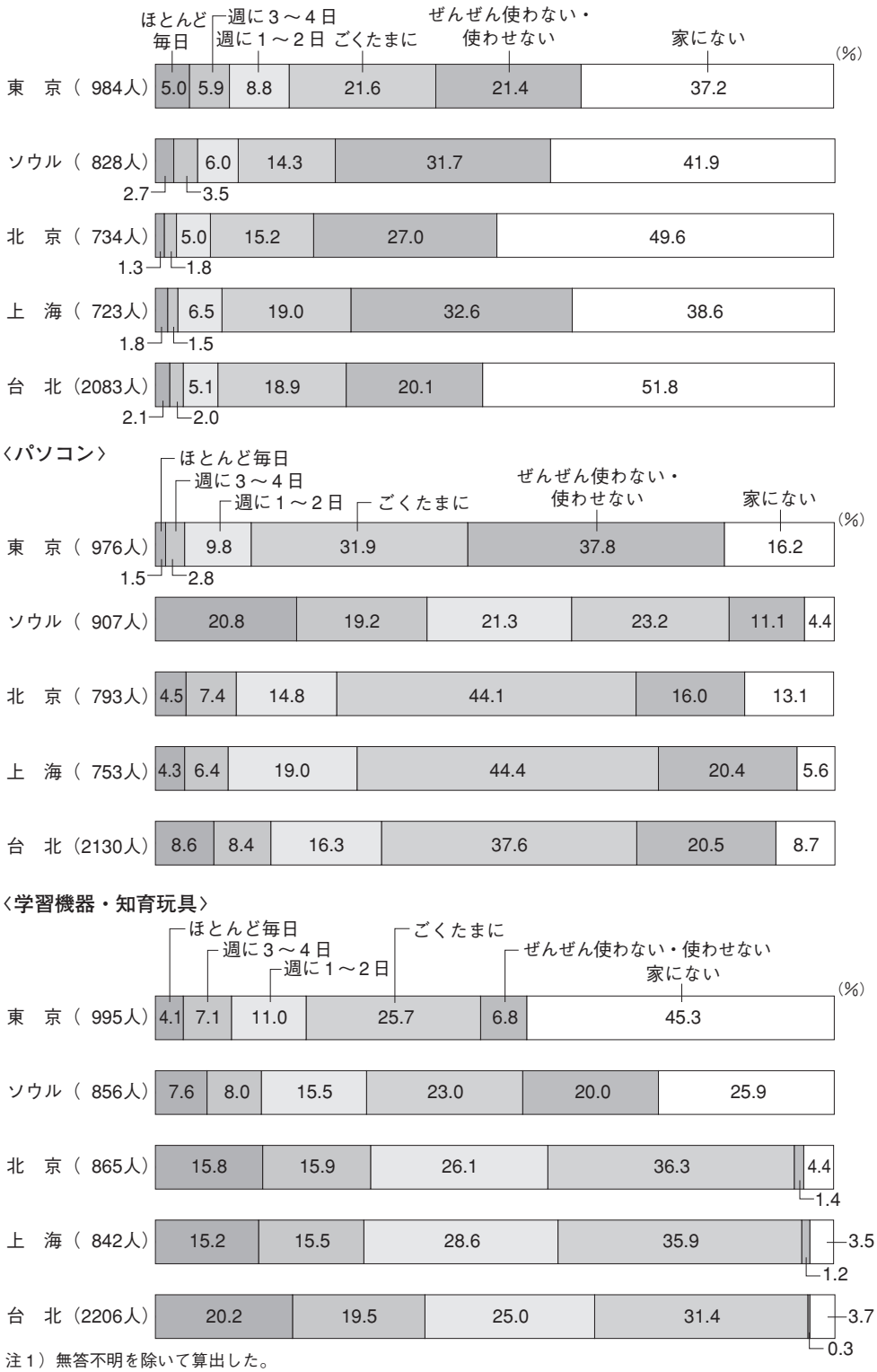
「学習機器・知育玩具」をみると、台北、北京、上海では家にある比率が高く、かつ、使用頻度も比較的高い（39.7%、31.7%、30.7%）。一方、東京では半数近くが「家にない」と答え、使用頻度も低い（11.2%）。ソウルも東京に次ぐ使用頻度の低さである（15.6%）。

■図１－３－１　家にあるものの使用頻度



注１）無答不明を除いて算出した。
注２）「ワーク」について、ソウルでは「学習誌」となっている。ここでの「学習誌」は習い事としての家庭訪問教師が指導する学習誌や家族の人が市販のものを購入し、子どもに家で取り組ませる学習誌を含む、広い意味での学習誌を指している。
注３）「CD」について、ソウル、北京、上海、台北では、「ラジカセ（CD）」となっている。

■図１－３－１　家にあるものの使用頻度 〔続き〕



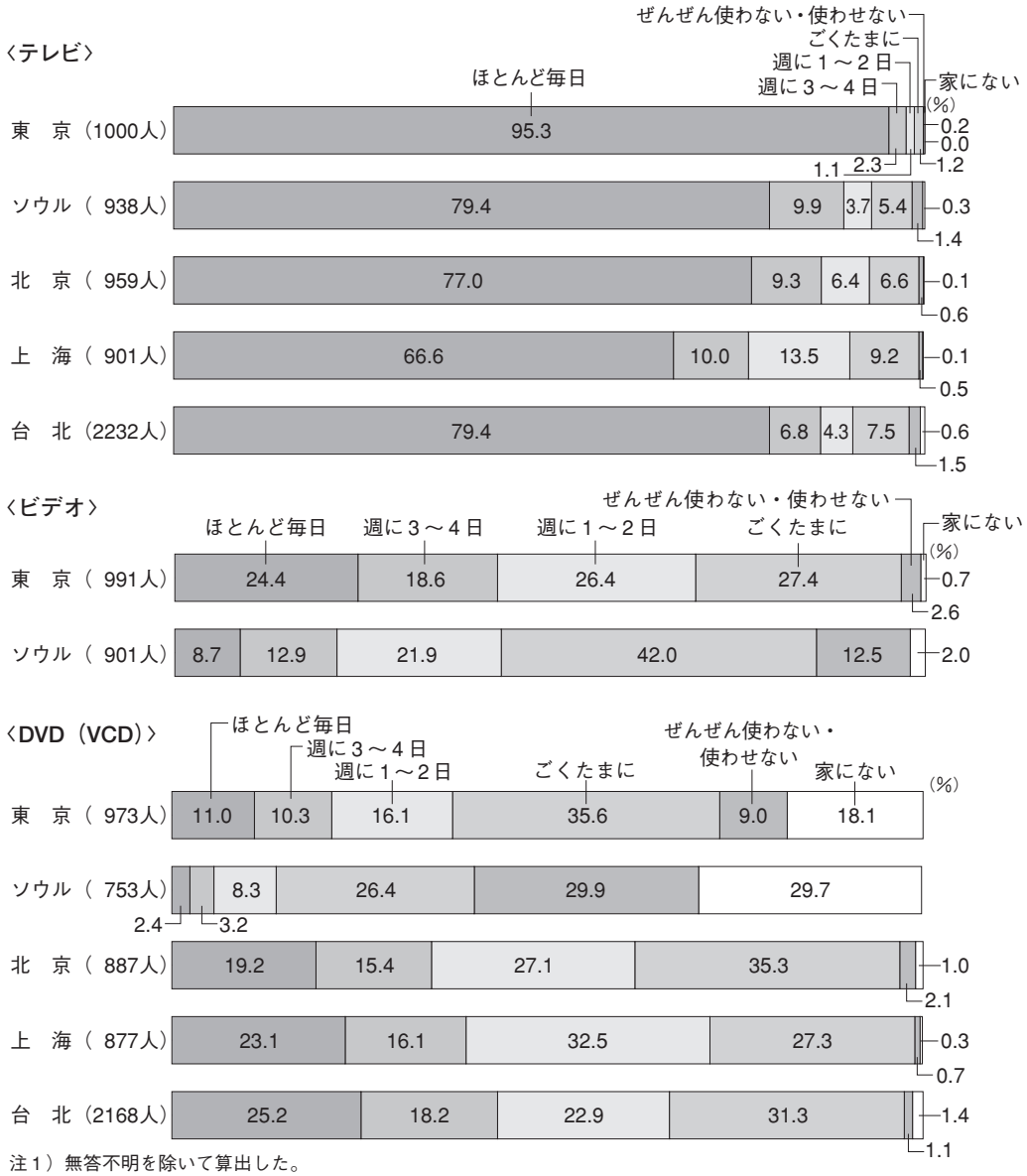
注１）無答不明を除いて算出した。
注２）「テレビゲーム」について、ソウルでは「ゲーム」となっている。
注３）「学習機器・知育玩具」について、北京、上海、台北では「学習用教具・知育玩具」となっている。

テレビ・ビデオ・DVD（VCD）

次に、テレビやビデオ、DVD（VCD）の使用頻度をみてみよう（**図1－3－2**）。東京はテレビを視聴する頻度が一番高く、ほとんどの子どもが「ほとんど毎日」見ているという。「週に3～4日」を合わせると97.6%である。それにソウル89.3%、台北86.2%が続く。

北京、上海、台北ではビデオはあまり一般的ではなく、DVDやVCD（ビデオCD）の普及が進んでいることから、これらの地域ではビデオの質問項目を設けていない。東京、ソウルのビデオに代わるものと考えていいだろう。ビデオの使用頻度をみると、東京では4割が週に3日以上使用しており、7割が週に1日以上使用している。ソウルでは東京よりも使用頻度が低い。

■図1－3－2　テレビ・ビデオ・DVD（VCD）の使用頻度



注1）無答不明を除いて算出した。
注2）北京、上海、台北ではビデオの使用頻度をたずねていない。
注3）「DVD（VCD）」について、東京では「DVD」となっている。

テレビ・ビデオ・DVD（VCD）視聴時間をみると（**図１－３－３**）、都市による平均視聴時間の長短が明確に現れる。一番長いのは東京の３時間43分、次に２時間台の台北２時間50分、ソウル２時間34分と続く。北京、上海は１時間台で、それぞれ１時間46分、１時間43分である。

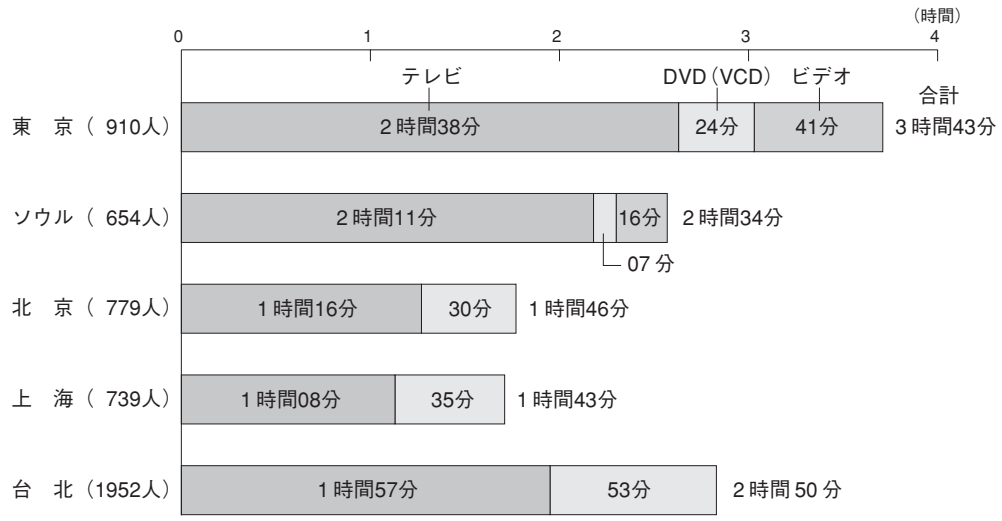
テレビ視聴時間は子どもの在宅時間とも関係があるだろう。国内調査でも在宅時間の長い未就園児は在宅時間の短い就園児よりも視聴時間が長いことが指摘されている。そこで、子どもの就園状況別に平均視聴時間を算出した（**図１－３－４**）。

東京の子どもは、就園児よりも未就園児の視聴時間が１時間ほど長い。台北の未就園児についても、就園児よりも視聴時間が１時間30分ほど長く、ほぼ４時間である。どの都市でも在宅時間が長い未就園児はテレビ視聴時間が長くなる傾向にあるようだ。

各都市において在園時間が一番長い、東京の保育園児（在園時間９時間22分）、ソウルの保育施設児（同７時間44分）、北京の幼児園児（同９時間38分）、上海の幼児園児（同８時間49分）、台北の託児所児（同９時間04分）について、平均視聴時間を比較してみた。東京の保育園児は平均視聴時間が３時間16分、ソウルの保育施設児が２時間39分、北京の幼児園児が１時間46分、上海の幼児園児が１時間43分、台北の託児所児が２時間31分である。このように比べてみると、ソウルと台北は２時間半くらい、北京と上海は１時間45分くらいであるのに対して、東京は在園時間が長い保育園児でさえも１日平均３時間16分と他都市よりも際立って長い。

視聴時間に占めるビデオ・DVD（VCD）の比率を計算すると、東京29.1%、ソウル14.9%、北京28.3%、上海34.0%、台北31.2%となり、ソウルではビデオやDVD（VCD）よりもテレビを見る比率が他都市よりも高いのが特徴的である。ソウル以外の都市では、テレビとビデオ・DVD（VCD）の比率はおよそ７対３のようだ。

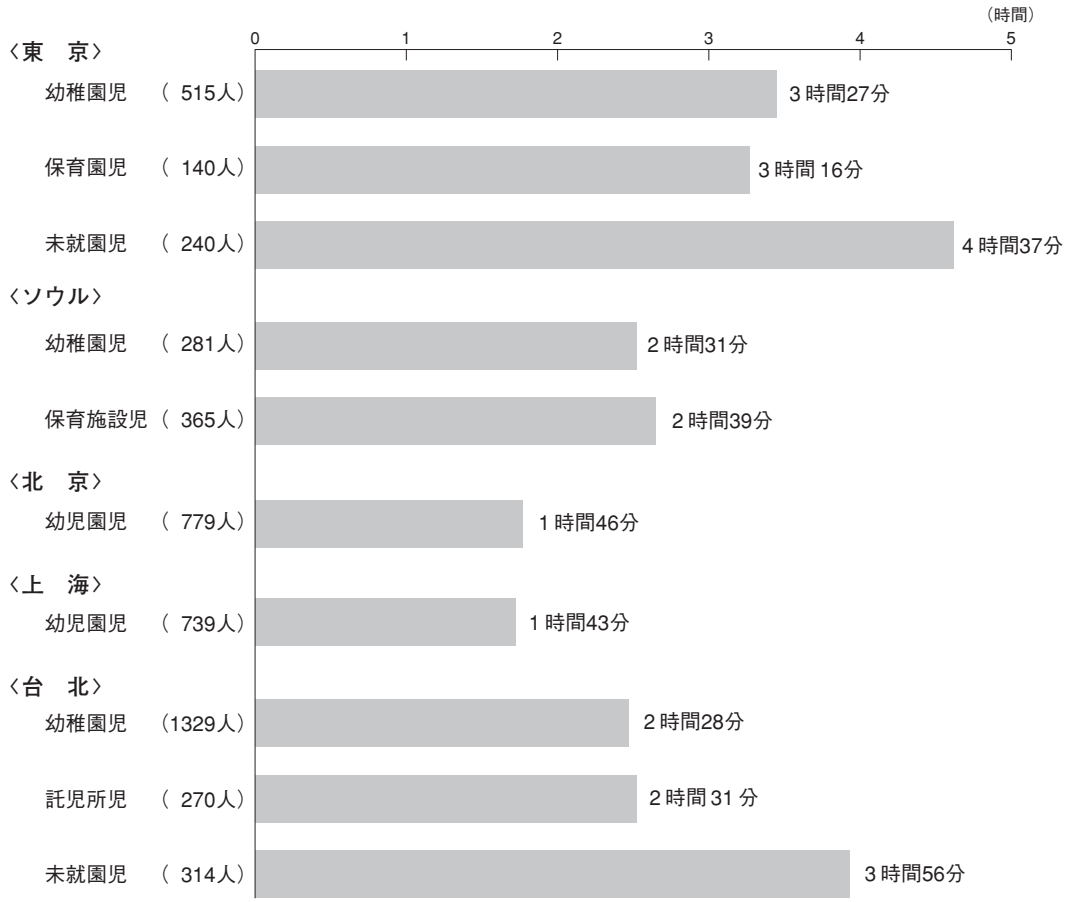
■図１－３－３　テレビ・ビデオ・DVD（VCD）の平均視聴時間（種類別）



注１）北京、上海、台北では、ビデオの代わりにビデオCD（VCD）およびDVDが普及しているため「ビデオ」視聴時間はたずねていない。

注２）「テレビ」「ビデオ」「DVD（VCD）」を使う頻度に関する設問で「ごくたまに」「ぜんぜん使わない・使わせない」「家にない」と回答した場合は、「0時間」として平均視聴時間を算出した。なお、いずれかの質問に対して無答不明のあった人は、分析から除外している。

■図１－３－４　テレビ・ビデオ・DVD（VCD）平均視聴時間（就園状況別）



注１）東京、ソウルは「テレビ」「ビデオ」「DVD（VCD）」視聴時間の和。北京、上海、台北は「テレビ」「DVD（VCD）」視聴時間の和（これらの地域では、ビデオの代わりにビデオCD（VCD）およびDVDが普及しているため「ビデオ」視聴時間はたずねていない）。

注２）「テレビ」「ビデオ」「DVD（VCD）」を使う頻度に関する設問で「ごくたまに」「ぜんぜん使わない・使わせない」「家にない」と回答した場合は、「0時間」として平均視聴時間を算出した。なお、いずれかの質問に対して無答不明のあった人は、分析から除外している。